

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：科学技術を考える - 人文学の視点から ILAS Seminar Thinking Science and Technology: Perspective from Humanities			担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 准教授 瀬戸口 明久		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール
開講年度・開講期	2019・前期	受講定員 (1回生定員)	12(8)人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	人文科学研究所本館3階セミナー室3(本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	科学史 / 科学哲学						
【授業の概要・目的】							
<p>科学とは何か。この問いについて考える人文学として、科学史・科学哲学・科学社会学などがある。このセミナーでは、科学哲学者イアン・ハッキングが書いた『表現と介入』（1983）という著作を通読する。科学理論はしばしば塗りかえられ、新しいものに置き換えられていく。熱素やエーテルのようにかつては実在すると考えられていたが、その後存在が否定されたものは少なくない。ならば電子や原子も確実に存在するとはいえないのではないか。そのような反実在論に対してハッキングは、科学史から多くの事例を引いて反駁していく。それまでの科学論が理論に重点を置いていたのに対し、本書は実験や観測といった科学者が日常おこなっている実践に踏み込んでいる。事例の多くは物理学からとられているが、高校で学習する程度の知識でおおむね理解できる。とはいってもやや難解なので、毎回1章から2章ずつ、丁寧に読んでいくことにしたい。発表者は要点をまとめて紹介し、そのほかの出席者は読んできて議論する。</p>							
【到達目標】							
<ul style="list-style-type: none"> - 一冊のテキストを読みきって理解する。 - 論理的な文章を読み解き、書くことができるようになる。 							
【授業計画と内容】							
<p>第1回 イン트로ダクション 「科学とは何か」という問いがなぜ問題になるのか話します。現代の科学技術の諸問題を考える上で、科学の人文学の視点がどのような意味があるのか話したいと思います。</p> <p>第2回～第11回 『表現と介入』の講読 第12回～第14回 観測、実験についての関連文献の講読</p>							
【履修要件】							
特になし							
【成績評価の方法・観点及び達成度】							
<ul style="list-style-type: none"> - 出席と授業中の報告（60点） - 課題レポート（40点） 							
【教科書】							
イアン・ハッキング 『表現と介入』（ちくま学芸文庫）ISBN:4480096558							
【授業外学習（予習・復習）等】							
<ul style="list-style-type: none"> - 参加者はテキストを読んでくる。 - 発表者はレジュメを作成する。 							
【その他（オフィスアワー等）】							